

週刊センターニュース No.193



第193号(2008年2月4日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

日本高等教育学会創立10周年記念シンポ参加報告

2008年1月5日(土)、東京の学術総合センターにて標記のシンポが行われた。大学・高等教育自体を研究対象とする点で同じであっても、約30年の歴史を有する大学教育学会に比べれば、設立されて10年というのは短い、誕生時から会員であった身としてやはり感慨ひとしおである。シンポの共通テーマは「高等教育研究をどう発展させるか」である。開会冒頭の山本眞一会長の挨拶にもあったが、研究者が理論・実証研究を行い、その基礎に立って理想の大学像を描き、それらにある意味目標として、政策が立案・実行されてきた面もあったが、近年は大学(教育)改革のうねりが急激なため、現実が(研究より)先を行き(あるいは予測を裏切って)、我々はいつも後追いになっているという。

シンポで議論されたテーマは、「高等教育研究と人材養成」「高等教育研究と Institutional Research」= IR」そして「高等教育研究と政策研究」の三つで、各テーマとも魅力的であるのだが、(研究の)姿勢のブレークスルーとなるような材料を生み出そうという意図そして期待は裏切られたという印象が残った。

今回のシンポの前提として想定される過去の学会(の課題研究・自由研究)で提起・研究報告がなされたものを試みにプログラム集で確認してみると、純粹(社会科学的)に“研究”に終始するものの割合がやはり大きい。高等教育についての基本的な知識、例えば歴史や外国の政策事情に係る内容を豊富にし、いくつかの大学経営コース・大学院プログラムの受講者に提供することはできたかもしれないが、日々それぞれの大学で改革・改善の企画と実践に奔走している者にほとんど寄与していないというのが実態だと思う。現場に比較的近い研究課題としてみることはできるFD/SD研究(論)にしても、それに対する評価は果敢しくない(むしろそうした論を展開する研究者自身が develop 開発・改善されなければならないことも。前の職場で求められたこともあって継続して研究を進めている自身の反省も込めて)。そうした現場から立ち上がる課題群に何か指針を示すことができず、またそれらを有効に解決する専門人材の形成に充分に関わることができないのはやはり不幸なことだと思う。

シンポを終えて、上記の大学院プログラムにあって運営中心メンバーとなっている当該学会の第一・第二世代にあたる研究者たち、また全国の主要大学に設置された大学教育センター(アメリカの大学に存在する専門的な組織としての大学機関調査研究部門(IR)と捉えることができる)に職を得、大学経営支援の専門家としての機能を求められ、日々模索していると思われる若手研究者=第三世代のいずれもが、「研究と実践の往復」をそれぞれのやり方で試行錯誤し、弛まず能力向上を図っていく必要があると、率直に感じた。(文責: 評価システム研究部門 渡辺 達雄)

「FD 開発・実践開発シリーズ」について

当センターでは、平成20年度からのFD義務化に備え、FD開発・実践開発シリーズとして共同学習会を開催しております。FDって何？ 何のために？ という素朴な議論にも具体的に答えるシリーズです。是非ご参加ください。また、ご希望のテーマがありましたら、遠慮なく、お申し出ください。可能な限り、ご希望に即した企画を試みます。

「教育相談室」利用のお願い

当センターでは、本学の教育改善に資するため、教職員を対象とした「教育相談室」を開設し、皆様からのご相談に応じております。角間キャンパス総合教育棟南棟6階の当センター共同研究室の隣(602号室)です。またご相談への対応を充実したものとするため、漸次アーカイブ資料(共同学習会や各種セミナーの録画テープ・配布資料など)を整理・保存しております。一覧が、当センターWeb上「教育相談室」(http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daiyou_rche/counsel/counsel.htm)に掲載されています。リストに挙がっているものは、貸出しも致します。原則的に個人の教育改善研究用としておりますので、各部局等单位でのFD等に利用される際には、別途ご相談ください。

高等教育に関連する研究会・セミナー情報

・2月19日(火)13:00~16:50 Asia-Pacific Quality Network (APQN) オープンシンポジウム
「What's "University"? - from QA community - 「ユニバーシティー」とは? : 質保証の観点から - 」(大学評価・学位授与機構)

会場: 幕張メッセ 国際会議場(千葉市美浜区中瀬2-1) http://www.m-messe.co.jp/access_j.html

講師: 基調講演 Concepcion Pijano (APQN 会長)、Peter Williams (英国高等教育質保証機構(QAA))、李志宏(中国教育部高等教育教学評価センター)

パネルディスカッション モデレーター: 木村 孟(大学評価・学位授与機構)

Molly Lee (UNESCO)、Nuanthip Kamolvarin (チュラロンコン大学)、

Mike Willing (ニュージーランド資格審査局(NZQA))、生和 秀敏(大学基準協会)

問合せ先: 大学評価・学位授与機構評価事業部評価企画・国際課国際企画・事業

電話: 042-353-1625、Email: kokusai@niad.ac.jp

詳細は、<http://www.the-convention.co.jp/apqn2008/opensymposium/japanese.html> を参照

・2月23日(土)13:00~17:30「学びの原点—プロジェクト型教育の挑戦!!—地域・社会が学生を育てる—」(同志社大学)

会場: 同志社大学 今出川キャンパス 明德館1番教

第1部 「同志社大学プロジェクト科目の試み」

「プロジェクト科目の目指すもの」 山田和人 / 同志社大文学部教授・プロジェクト科目部会長
事例報告 同志社大プロジェクト科目 学生による事例報告1・2

第2部 シンポジウム「PBL型教育の可能性について」

パネラー: 土肥紳一(東京電機大情報環境学部准教授) 飯田周作(専修大ネットワーク情報学部准教授) 石川博三(同志社小学校教諭) 岩瀬直樹(埼玉県狭山市立堀兼小学校教諭) 山田和人(同志社大文学部教授)

問い合わせ先: 同志社大学教務課 TEL: 075-251-4630、e-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

詳細は、<http://www.doshisha.ac.jp/academics/activity/simpo0223.php> を参照